

混成団直轄戦闘隊集中訓練



襲撃する戦闘隊

敵を切り裂く団長の牙となれ！

中部方面混成団（団長 芝 伸彦 1等陸佐）は、令和3年11月7日から13日までの間、日本原演習場において、第110教育大隊（大隊長 土橋 晃輔 2等陸佐）の基幹要員で編成した団直轄戦闘隊に対して集中訓練を実施した。

混成団は、即応予備自衛官をもって編成される2コの普通科連隊と准曹教育、新隊員教育等を主任務とする部隊から成り、師団・旅団の第一線部隊と比べると教育部隊の色合いが濃い。このため、等しく付与される厳しい任務に実効性をもって対応出来るよう教育大隊の精鋭を更に徹底的に鍛え、団長の牙とすべく本年度から戦闘隊の練成が開始された。

今回の集中訓練は、本年度の締めくくりとして団長統裁のもと応用射撃と実動による遊撃行動を練成課題として実施した。

応用射撃は、至近距離において前後左右に射手が移動しつつ射撃を行い、標的の指定された部位に命中させる



第48号

令和3年11月19日

団長要望事項
強くなれ

発刊：中部方面混成団広報室



混成団
web site

という極めて高度な到達目標としたが、戦闘隊の全隊員が概ね所望の練度にあることを確認した。

遊撃行動は、中隊及び直轄小隊の検閲として防御を行う第47普通科連隊を敵に見立て、その陣地をすり抜けて連隊段列を襲撃する想定で行われた。

さすがに真剣に防御する連隊の守りは堅く、警戒も厳しい、このため戦闘隊は、幾度も監視を避けるための迂回を強いられ、目標とする敵段列地域への進出は、潜入開始から一夜明けた早朝となった。安全係として戦闘隊に同行した金田3曹（団本部）は、「迂回」という単語が世の中で一番嫌いな言葉になったと語った。

隊員は、重く体へのしかかる疲労と戦いながらも、拠点の占領、目標の偵察、襲撃準備を整え、日没とともに目標に近迫し襲撃を実施、敵の段列指揮官及び部隊を制圧し任務を達成した。

途中、三度の熊の目撃情報や足跡が散見される等、注意が必要な場面もあったが、隊員の気迫に熊も逃げ出したようであった。

今回、戦闘隊長を命ぜられた勝部1曹は、「潜入は、見積りも時間を要し、予定通りにはいかなかったが、各分隊長のサポートや全員が同じイメージを共有していたため任務を達成できました。」と述べた。

また、団長は、「訓練は言われたことをそのままやるのではなく、示された目標に向けて自ら考えて取り組むと、より価値のあるものになる。これまでの練成や、今回の集中訓練での皆の取り組みを見て、真剣に、どんな欲に高みを目指す姿を見

て、これが本当の訓練なんだと実感した。よく頑張った。」「ただし、敵に遭遇した時に迷いが見られる。実戦ではそれが命取りとなる。迷うな！すぐに動け！そのためには更に練成が必要だ。」と述べ訓練を締めくくった。



前進後退射撃



戦闘指導



団長指導



敵情を共有する戦闘隊

令和3年度対抗指揮所演習



第49普通科連隊指揮所



第47普通科連隊指揮所

大局を見極め、最良の判断を実践せよ

混成団は、令和3年9月9日から15日までの間、中部方面指揮所訓練センター（兵庫県川西市）において、第47普通科連隊を防御部隊、第49普通科連隊を攻撃部隊として、対抗方式による指揮所演習を実施しました。

本演習は、想定による時間的、地域的な縛りを最小限にして、指揮官は任務を達成するために「いつ」「何を」判断しなければならぬのか。それを補佐する幕僚活動はどうあるべきかを学び体験させることを狙いとして行われました。

演習は、両連隊とも自由意思で行動するため、敵の企図を予

測することも難しい状況でありましたが、敵の包囲を打破した第47普通科連隊長は、後方地域に一部の部隊を転用し、新たな縦深を形成、それら防御部隊の行動を予測した第49普通科連隊長は、連隊のほぼ全力を運用して翼側から攻撃を開始した状況で終了しました。

一般的に戦術教育では、状況判断とは、最良の行動方針を決定するために行うものとして教えらるるが、自由意志で行動する敵を前に、これを行うことは難しく、状況によっては先ず大局を判断して行動方針を定め、それを実行するために必要な処置を決めて行くことが求められる場合があることを、本演習を通じて体得させることが出来ました。

対抗指揮所演習を終えて

混成団本部 第3科長
3等陸佐 水上 高德

本演習では、想定上の設想を努めて排除し、戦場を広く設定したため、両連隊の作戦が咬み合うかとても不安でしたが、任務と状況付与により、それぞれの作戦行動を何とかコントロールすることが出来ました。

結果的には、様々な戦闘場面が生起し、両連隊の指揮幕僚活動の能力向上に寄与できたと思います。

統裁部として不慣れな点もあり、後手に回った統制でしたが、統裁側の課題も明確になり、じ後の資を得ることが出来ました。

引き続き、部隊練度向上に資する基盤の調整、統裁部としての統制・調整能力の向上に尽力していきます。



訓練統裁中の団長



第47普通科連隊の部隊運用入力

#9陸曹中級課程総合訓練



攻撃戦闘中の各場面

全員が無事任務完遂

第4陸曹教育隊(隊長 木場 元大一等陸佐)は、令和3年11月7日から10日の間、あいは野演習場において第9期陸曹中級課程総合訓練を実施しました。

訓練は、小銃小隊長等としての状況判断、実員指揮能力の向上及びフォローシップを醸成するとともに、戦闘員としての基礎を体得させることを目的として行われました。

約30kmの徒歩行進に引き続き山地潜入の後、共通教育中隊が防御する陣地に対して偵察と攻撃を行い、離脱までを演練しました。

参加した学生からは「的確な指揮により、戦闘力を集中して敵を攻撃し、全員で任務を完遂できました。」「小隊長として分隊長に対してどこからどこまでを任せるかの判断が難しかった。」などの声が聞かれました。

第9期陸曹中級課程参加所見

上級陸曹教育中隊長 3等陸佐 高村 憲吾



今期の訓練は、コロナ等により教育日程の圧縮、空包・火工品が使用できない等、様々な制約下での訓練でしたが、初めて共通教育中隊の防御訓練と連携した訓練により、実際に敵情(学生)のある中での山地潜入、偵察活動、陣地攻撃が実施できたことです。これにより、状況判断機会の増加、基本・基礎やモチベーションの向上につながり、今まで以上にリーダーシップやフォローシップの醸成に繋がったものと思料しています。

また、学生も今期の特性を踏まえリーダー、フォロワーとして中級陸曹としてあるべき姿を模索できたのではと思います。

これは、中隊長上番以来、初めて全学生が1名も脱落せず任務を完遂したことがその証左であり今後も様々な制約の中にあっても創意と情熱を持って教育担任にあたりたいと思います。

#139初級陸曹特技課程

令和3年11月8日から11日の間、日本原演習場において射撃野営を実施しました。



L AM演習弾射撃



L AM縮射弾射撃

#140(1次)陸曹候補生課程

令和3年11月8日から11日の間、あいは野演習場において防御訓練を実施しました。



L AM用掩体構築



鉄条網の構成

予備自衛官補招集教育訓練に参加して



第109教育大隊 橋谷 宗昌

私が予備自衛官補を志願したきっかけは、日々国防に従事する自衛隊ってどのような生活を送っているのだろうかという疑問からです。

予備自衛官補に採用され、自衛隊の生活や訓練を通して現役自衛官の大変さを痛感しています。私達が大変であると感じた訓練が基礎であり、そこからそれ以上に大変な訓練が行われていると考えると、日々国防のために訓練されている自衛隊の皆様には頭が上がりません。

将来は、一般幹部候補生を目指したいと考えています。



第110教育大隊 伊藤 惇哉

私は、自分の為、日本の為になればとの思いと、友人や親戚が自衛官であるため少しでも自衛隊の世界を知ってみたいという思いから予備自衛官補として採用されました。

これまでの訓練では肉体的に苦しいことや緊張することもありましたが、仲間たちと助け合い、励まし合うことで乗り切ることができました。

その中でも武器訓練練度判定で優秀隊員として表彰されましたが、これは自分だけの努力ではなく、仲間との団結があつてこそだと感じています。

残りの訓練も苦しいことや辛いことはあると思いますが、励まし合って頑張ります。

予備自衛官補招集教育訓練

予備自衛官を目指し奮闘！



戦闘訓練

混成団は第109教育大隊及び第110教育大隊が担任する予備自衛官補招集教育訓練を実施中です。

本教育訓練は、主として自衛官未経験者を予備自衛官補(一般)として採用し、3年以内に50日、AタイプからJタイプの各5日間出頭による所定の教育訓練を経た後、予備自衛官として任用されます。

また、医師や弁護士などの技能を有する者を対象とした予備自衛官補(技能)もあり、2年以内に10日、技1と技2の各5日間出頭により教育訓練を行っています。

総監感謝状贈呈

永年にわたる御尽力に感謝をこめて



贈呈式での記念撮影

中部方面混成団友の会副会長内藤文雄氏は、令和3年10月2日に実施された方面隊創設61周年記念行事において、中部方面総監感謝状を受賞されました。

感謝状は、永年にわたる防衛思想の普及と防衛基盤の育成に尽力された功績に対して贈られました。



掩体からの射向確認



天幕展張